― ヒヨコ・ニューサクルメンバー便り ―

●6 月 24 日（日）開催/NS メンバー企画

ふるさと兵庫 100 山「藍本から虚空蔵山へ」

布引支部　松本　良一

ヒヨコ登山会の新人メンバーたちが、オールラウンドな山の楽しみ方を 1 日も早く会得しようと集って企画し、行動するようになって丸 1 年半が経過した。ほとんどのメンバーが未だ現役で仕事をしている為、皆がすべて揃って行動出来る訳ではないが、元気なヒヨコの先輩達に少しでも追いつこうと積極的に参加している。今回の企画ですでに 12 回目となるが、ヒヨコの本例会同用、ニューサークル例会も参加点数 2 点を加えて頂ける事が総務委員会で決定したと聞き、有り難く、皆で頑張ろうと言う気になっている。

藍本駅でお出迎え

酒垂神社

6 月 24 日（日）、JR 福知山線藍本駅 9：00 集合。三田市と篠山市の境界線上を北へ延びる**虚空蔵山登山**が今回の例会である。参加の可否は前もって聞いていたので早めに藍本駅に着いてメンバーを待った。参加者は**男性９名女性７名、合計 16 名**の予定である。山案内役は吉野会長にお願いし、女性メンバーも相談しやすいようにと思い、木村支部長に無理やりアドバイザー役をお願いしておいた。

JR 福知山線は開通した当初（明治 32 年）は**阪鶴鉄道**と呼ばれていたこと、駅前を南北に通る古道は**大坂街道**と言い、昔は**丹波篠山～古市～日出坂峠～藍本～三田を結ぶ主要路**であったこと、したがって、ここ藍本は**宿場町**として栄えたが、阪鶴鉄道が開通し、さらに**国道 176 号が整備**されるとともに**大坂街道は幹線からまったくはずれる**ことになった・・など、出発に際し、会長よりこの辺りについての詳しい説明があった。

8 時 50 分着の列車に乗り遅れた？（乗り過ごした？）かは定かではありませんが、1 名未着のまま、目指す登山口の途中にある**「酒垂神社」**まで先に出発することになった。静かなたたずまいの大坂街道を少し南へ下った所に**酒垂神社（さかたれじんじゃ）**はある。

県下最古の鳥居・酒滴神社/一の鳥居（県重文財）

昔は神社へお参りする場合、必ず一の鳥居をくぐり、本殿へ向うのが通常。その鳥居は本殿から 100 メートル程東へ真っすぐ行った先にあった。この鳥居は**兵庫県内最古の貴重な鳥居**であり、**県の重要文化財に指定**されていること、鳥居の石の色が異なっているのは、**折損したものをその後のものと取り替えた**こと、そして鳥居は街道（市道）沿いの二の鳥居、本殿がある境内の三の鳥居の合計三つあること・・など、これも会長より詳しく説明して頂いた。

地図を広げ、位置確認をする NS メンバー

今朝方までのモヤった天気とは打って変わった青空が広がり、真っ白な雲が浮かんでいる。こんなにのどかな田園風景の中で、胸いっぱい美味しい空気を吸うことのできるこの幸せ！
（松本センチむしは感激しました！）

獅子の顔が彫られた酒垂神社本殿の屋根頭

そんな田園風景の中で、頂いた資料から地形図を出して虚空蔵山の位置や標高、現在地や周りを取り巻く山々など、コンパスを使っての確認をする。そうこうしている内に、9 時 31 分着の列車が神社前を通過、最後の 1 名が到着し、酒垂神社にて全員集合となった。
此の神社のいわれも面白く『貞観年間（860 年頃)、国内で悪疫が蔓延したとき「われは**素戔嗚尊**なり」という童子のお告げで山へ登った村人が、**天然の霊窟から垂れ出る酒**を発見。これを飲んだ人たちはたちまちのうちに病が癒えたため神祀りをし、岩山大明神として崇拝した。・・』とのこと。**酒盛りが大好きなメンバー？**だけに、その岩「**酒垂岩**」に一眼お目にかかりたかったが、駅から北へ向う**裏参道コース上**にある為、今日歩く**表参道コース**ではお参りすることがかなわなかった。（残念！）
　舞鶴若狭自動車道の高架を潜り、左へすぐの所が登山道入口である。途中、「**石舟**」と書かれた標識が有り、この谷の川床が舟の形になっていて丁度手洗いの良い場所となっている。中腹にある**虚空蔵堂（虚空蔵菩薩をお祀りしてある）**にお参りする人々はここで手を清めて行ったのであろう、我々も自然に手洗いをした。
この場所からジグザグの登山道を 20 分程登った場所に**虚空蔵堂**はあった。

上・虚空蔵堂にて

下・境内に咲いていたウツボグサ

この虚空蔵堂は大昔、推古天皇の時代に聖徳太子が夢のお告げによって建立したそうで、本堂の他に毘沙門堂、薬師堂、仁王門などの七堂伽藍があったそうだが、天正 7 年(1579)、**明智光秀の「丹波攻め」の際に消失**してしまったとのこと（資料より)。そして、この山は「**虚空蔵堂山**」と呼ばれていたらしく、紫色の**ウツボグサ**が点在して咲く広い境内を見ていると、そんな歴史を少しだけ感じることが出来た。

急登の登山道にひっそりと咲いていたササユリ

お堂の裏手より山頂まではかなりの急登であっ

た。天気が良すぎるのも考え物！・・などと、贅沢な事を言って汗を拭いながら喘ぎ喘ぎ登っていると、真っ白な**ササユリ**が清楚な姿を見せてくれ、一瞬ではあったが暑さと疲れを飛ばしてくれた。陶の郷へ下る尾根筋に飛び出した所で水分補給の為小休止。「さあ～頂上までもう一息！」の会長の声を信じて？・・登った！・・平坦な尾根筋へ出て、少し進むと展望ポイントである岩場（**丹波岩**）があり、全員順序良く岩の上に立つことが出来た。山頂はすぐその上であった。

丹波岩に立ったよ～♪

丹波岩に立ったよ～♪

山頂の古い標識には 596 メートルと記載されているが、最近の国土地理院地形図には 592 メートルが表示されている。ここは現在の地形図表示に軍配を挙げておこう。

木陰でランチタイム。カラフルなハットの女性 NSM

誰もいなかった山頂は、食事半ばに団体登山者で溢れてしまい、早々に下山することになった。山慣れた会長のおかげで先に登れ、山頂を独占出来たおかげで楽しいランチタイムを持てた。

丹波上立杭にある登り窯

篠山の陶の郷へ下山し、それぞれくつろいだ後、バスで相野駅へ。JR 三田駅からは神戸電鉄組とに分かれ、例会の the end となった。

バス内でくつろぐＨＮＳメンバー

写真提供　吉野会長